

令和四年度 入学試験（社会人）問題 「国語」

一次の文章を読んで、後の【1】～【19】に答えなさい。なお、作問の都合上、一部の表記を変えていきます。

わが家には一匹の柴犬がいる。十三歳になるその一匹がある夜、痙攣を起こして、近くの病院に入院。翌日、乳腺癌の切除手術を受けた。前々から手術の必要を言っていたのだが、数日前から急に異様なまでの大きさに腫れ上がっていたのだつた。数日間の治療のあと、患部を舐めないようにと段ボールで作ったエリザベス・カラートマギーのものを頸に巻いて、家に戻ってきた。いよいよ療養と高齢犬介護のシフトに家族生活も移行しなければならないと、家人とともに覚悟を決めることになった。

じつと横になつたままで、ふだん世話をしてくれる家人のふるまいを眼で追つてゐる。家人の姿がふと消えると、耳で気配を追い、いつもとおなじ行動だと判ると安心してうとうとしはじめる。でも家の前にクルマが停まる気配がすると、覚束ない足どりで、低い声で吠えながら玄関に向かおうとする。彼女はあきらかにわが家の住人である。が、ふだんはめつたなことでは声を上げない。わたしが帰宅したときははしゃぎ、手を、顔を舐めにくるのだが、すぐに【I】を返して寝床に戻る。ときにものすごく深いまなざしで見つめられることがあるが、不意にそれも外される。まるで瞑想するかのように庭をじっと眺め入つてゐるときもある。何を思つてゐるのだろう、深いまなざしの底にどんな〈魂〉が宿っているのだろうと、訝しく思うようなときがしょっちゅうある。じつと眼を合わせていても、そこに無限の隔たりといふものを感じことがある。

【II】長いつきあいのなかでの信頼というものを礎としたコミュニケーションと、無限の隔絶を感じさせるディスクミニケーションとがたえず交叉する。馴染みと疎遠、近さと遠さが、同じ形姿の上に重なる。が、これは家人との関係においてもおなじように言えることではないのか……。犬という存在は、それほどまでに深く「われわれ」（家族、もしくはヒトの世界）に食い込んでいる。

いうまでもなく、ひとがみずからを「しである」と規定する行為と、みずからを「しでない」と規定する行為とは、表裏の関係にある。つまりそこには、みずからが「何」であるかの了解を導きだし一定の解釈枠というものが前提としてある。その解釈に沿つて、どのような存在を同種とみなし、どのような存在を異種とみなすのか、みずからの位置からしてどのような存在が近くて、どのような存在が遠いと感じるのかが決まってくる。そのときの「みずから」なるものの規定もまた、この同種／異種、近さ／遠さの解釈のなかでなされるのであるから、「どのような存在を同種とみなし」という言い方も「じぶん以外のどのような存在を」とはあらかじめ言えないわけである。

犬や猫に代表されるペットも、そういうヒトの側からする解釈のなかで、その位置を、したがつてまたその規定を変えられてきた。牛や馬が野生動物から「馴らす」という作業をつうじて「飼われる」家畜へと変貌し、さらには産業動物に、実験動物にとヒトの社会内での位置づけをもえてきたように、たとえば犬も、狩りの戦友から「番犬」という名の飼い犬に、さらには愛玩の対象としてのペットにとその位置づけをえてきた。

種差を超えた〈友〉としての発見から、家族の一員という承認まで、たしかにヒトは犬を他の動物から切り離して、「われわれ」の側へと引き込んでいった。ともに狩りをする猟犬として、「われわれ」を防備する番犬として、「われわれ」を和ませるペットとして。これは言つてみれば〈引き込み〉のプロセスである。

これは同時に〈馴らし〉のプロセスであった。ヒトの意向にひたすら従順なものとして駆け、馴らす。つまり、じぶんに向かつて【III】を剥かせないこと。手に負える、管理できる、そのような存在へと手なずけること。

見下ろす／見上げるという視線の勾配に象徴されるような支配／被支配の関係がそこには厳然とある。意のままにできる、したがつて廃棄というかたち、譲渡もしくは売却というかたちで、自由に処分できる存在として「飼い犬」はある。これと並行して、もっと美しい模様を求めて鯉を、もっと長い尾、もっと美しい鳴き声を求めて鶏を、品種改良してきたように、もっと小型にしたり短足にしたりと審美的な「改良」を施してきた歴史もある。

このなかの【IV】という契機が異様なまでに膨張しているのが、現代社会での犬の存在である。有用なもの

から「かわいい」もの、「癒してくれる」ものへの移行、見下ろす／見上げるという関係から見つめあう関係への移行である。家族の周辺から家族の中心近くへと（ヒトから言うと）内部化されてきたのである。少しでも寿命を長く、と健康食を考案し、先端的な高度獣医療を受けさせもする。高齢になれば手厚い介護もする。死ねばお墓も造る。「ペットロス」と呼ばれる症候群に苦しみもある。

一方、これはまぎれもなく犬の **V** のプロセスでもあった。戦後なら、まずはスピッツ、次にコリー、そしてテリア、シベリアンハスキー、豆柴……などと、流行の品種はひきもきらず入れ替わる。もちろんブランドもある。ペットショップには、もちろんの玩具や、栄養食品・お菓子、さらには装飾品、介護用品が並び、美容室も備わる。葬儀を取り仕切る業者も現われる。一方、介護が手に余れば、引き取りや遺棄、「廃棄」を業者や行政に委託することを考える人も少なくはない。

ここにあるのは、かぎりない慈しみ、愛着と、かぎりない **VI** の併存である。いいかえるとひとは、かわいいもの、心地よいもの、じぶんを慰撫してくれるものであるかぎりでペットを「人」生のパートナー」として愛玩するのであって、それはつまり条件付きの「愛」なのである。意のままになる、いつでも廃棄可能であるという、暗黙の条件がそこにはある。**友**は、**家族**は、**B**仮象としてそこにある。動物はそこでは、他者性を剥がれ、意のままになるものとしてその存在が「横領」（わがものとすること）されるかぎりで、愛される。

犬をはじめ、ヒト以外の動物は、ペット化されることによって、ヒトの内部に組み入れられるようになつたかのように見えるが、じつはそのことでその存在はよりいつそう隔てられたのではないか？ここでそのように問うてみたくなる。ヒトとそれ以外の動物との関係はもつとだらかな連続性のなかにあつたのに、ヒトの生活のなかに深く組み入れられることで、逆にそのあいだの断裂もまたより深くされたのではないか、と。

ともに天の下で地を這うようにして、限りある生をいとなんできた生きものたち。その一員でもある人間は、他の動物たちをときにともに生きる仲間と感じ、ときにじぶんを襲うものとして畏怖してもきた。理解も伝達も不能な、わたしたちの意識のはるか彼方にある存在でありながら、ときにわたしたちの食材ともなり、ときにわたしたちの語りかけに応えもする、そんな両義的な存在としてである。測りようもない絶対的な隔たり。**VII** という意味では、それは隔絶といえる。何も語らない、いかなる言葉も送つてくれない動物。そういう存在を「友」としてもちうるというのはどういうことなのだろう。ふり返つてみれば、たしかに民話や説話には、わたしたちの語りかけに応える動物が頻繁に登場する。する賢いキツネ、間抜けなタヌキ、そそつかしいネズミ、寂しがりやのイヌ、家族思いのゾウ、退屈そうな雄ライオン、鷹揚なクジラ……。それらはたしかに人間のセルフ・イメージが網掛けされ、投影されたものとして、あくまで比喩として語られるにすぎないともいえる。だがそこに、「横領」はない。意のままにできない存在、包み込めない存在、近寄つてくるかとおもえば遠ざかつてゆく測りがない存在とのつきあいを表象するものとして、それらの語りはある。内部化できないものについての語りである。

そのなだらかな連続性を切断し、その差異を際立たせるものとしてあるのが、**タブー（禁忌）**の設定であろう。それは他の動物たちを近さ／遠さを軸に選別するシステムである。

D (中 略)

ヒトはなぜ他の動物との異質性をかくも強く意識せずにいられなかつたのだろう。人間性と動物性との差異になぜかくも過剰なまでにこだわらずにいられなかつたのだろう。そこには、「他」者を向こう側に指定することで反照的に自己を規定するしかない、つまりは、そういう境界設定によって防衛されるほかない、ヒトとしてのアイデンティティの荒漠さが底深くあるからではないだろうか。食の欲求にまで深く刻み込まれたこのきわめて厳格な境界設定は、人間性と動物性との差異の強化にほかならない。じっさい人類は、ヒトを他の動物から区別するそのメルクマールが何であるかにずっとこだわってきた。そのとき、動物は何ものかの欠如によつて徴しづけられた。知性の欠如、意識の混濁、言葉や道具を使えないこと、ルールに従つて遊ぶことができるなどといふと……等々である。このように、強迫観念ともいえそうなこの過剰なまでの差異へのこだわりは、つねにヒトを中心にして、ヒトの側からなされてきた。それは、みずからもまた深く組み込まれている周囲の世界から距離をとり、それを操作可能な世界へと対象化する、そのような能力の欠如として表象され、ハイデッガー^{*1}の言葉でいえば、「世界が乏しい」という存在相にあるものとされてきたのである。そしてそれは、まぎれもなく、

物言わぬ〈友〉を、飼育、屠畜、消費、動物実験の対象として支配し、「量産」し、篡奪してゆく過程なのであった。

(鷺田清)『つかふ 使用論ノート』より)

*1 ハイデッガー・ド・ドイツの哲学者。一八八九～一九七六

【1】二重傍線部a「覚束ない」を言い換えた表現として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問1】

- ①しっかりしない ②意識的ではない
④のんびりとした ⑤しびれたような

③ぼんやりとした

【2】二重傍線部b「ディスコミュニケーション」の本文における意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問2】

- ①信用ができなくなっていること。
②通信状態が悪くなっていること。
③相手の問い合わせに答えないこと。
④互いの意思が通じ合わないこと。
⑤自分の考えを説明できないこと。

【3】二重傍線部c「畏怖」の本文における意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問3】

- ①恐怖で不自然な動きになること。
②恥じ入って萎縮してしまうこと。
③尊敬して丁寧な態度をとること。
④おそろしさを隠して強がること。
⑤おそれて慎んだ態度をとること。

【4】二重傍線部d「タブー（禁忌）」の例として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問4】

- ①日本では、神社と寺院が同じ敷地内に建てられていることがある。
②宗教によって、特定の動物の肉を食さない決まりがある。
③信仰などにかかわらず、多くの国や地域で、初めて会った人とはあいさつを交わす。
④日本人は、山や海、太陽や月など自然の全てを信仰の対象としてきた。
⑤日本の平安時代では、男性貴族が女性貴族の家を訪問する婚姻形態であった。

【5】二重傍線部e「アイデンティティ」の本文における意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問5】

- ①自分が歩んできた人生の痕跡のこと。
②自分が生きていくための信念のこと。
③自分の身分を証明する書類のこと。
④自分がこの世に存在する目的のこと。
⑤自分とは何ものであるかということ。

【6】二重傍線f「メルクマール」の本文における訛語として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問6】

- ①目的 ②指標 ③感覚 ④基礎 ⑤实体

【7】二重傍線 g 「簞笥」の本文における意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問7】

- ①動物の尊厳をうばいとってしまうこと。
②全てのものを破壊し尽くしてしまうこと。
③世界中の動物を独り占めしてしまうこと。
④すべての動物をしいたげて命をとること。
⑤ヒトが好き勝手に動物をもてあそぶこと。

7

【8】空欄Iを含む傍線部が「引き返して」の意味となるように、空欄Iに補う最も適切な語を次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。なお、漢字ではなく、平仮名で表記しています。【解答欄は問8】

- 8 ①しつべ ②まなこ ③きびす ④てのひら ⑤つまさき

【9】空欄IIには、これより前の三段落の内容を踏まえた二文が入ります。下の文につながるように、最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問9】

- ①療養する犬が生活の中心となつた。そこで犬は安心している。
②人も犬も高齢者になってしまった。でも犬はそのことを理解していない。
③犬は何を考えているかわからない。だからこそいつそういうとおしい。
④皆わが家の住人である。そのため気心は知れている。
⑤おなじ家族のメンバーである。しかし種としては異なる。

【10】空欄IIIを含む傍線部が「敵意をあからさまに表すことをさせない」という意味になるように、空欄IIIに補う最も適切な漢字一字の語を次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問10】

- 10 ①目 ②足 ③鼻 ④牙 ⑤爪

【11】空欄IVに補う本文中の語として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 11 ①愛玩 ②実験 ③屠畜 ④療養 ⑤家畜

【12】空欄Vに補う語句として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 12 ①野生化 ②商品化 ③実用化 ④人間化 ⑤家畜化

【13】空欄VIに補う語句として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 13 ①可憐さ ②謙虚さ ③自尊心 ④恐怖心 ⑤冷淡さ

【14】空欄VIIには、「どこにすがりついてよいか、手がかりがわからない」という意味の慣用表現が入ります。最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問14】

- 14 ①身もふたもない ②弱り目にたたり日 ③とりつく島がない
④小首をかしげる ⑤二の句が継げない

【15】 波線部A「われわれ」の側へと引き込んできた」とはどのような意味ですか。その説明として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問**15**】

- ①人間と同じような意志を持つ存在として扱うようになってきたということ。
- ②人間の意向に沿って都合よくはたらく存在に仕立て上げてきたということ。
- ③人間が野生の生命力を失わない動物であるように保存してきたということ。
- ④人間と同じ生活空間で人間のように振る舞う存在に変えてきたということ。
- ⑤人間と同様の尊厳を有する存在として認めるようになってきたということ。

【16】 波線部B「仮象としてそこにある」とはどのような意味ですか。その説明として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問**16**】

- ①ペットは飼い主を愛する友人ではなく、飼い主に満足できなければいつでもそっぽを向いて離れゆく存在であるということ。
- ②流行する品種でなければ、人間から見向きもされず、人間の生活を楽しくさせるときにだけ愛される存在であるということ。
- ③もはや野生動物としての存在感は失われ、人間によって飼育されなくては生きていけない状態になってしまったということ。
- ④実在する友人や家族としてではなく、飼い主の心を癒してくれる限りにおいて愛される幻像として存在しているということ。
- ⑤飼い主にとってペットは他者ではなく、どんな時であっても愛する「物」として傍に居続けてくれる存在であるということ。

【17】 波線部C「なだらかな連続性」とはどのような意味ですか。その説明として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問**17**】

- ①人間以外の動物は人間にとつて遠く隔たった存在でありながら、一方で人間に恩恵をもたらしてくれること。
- ②人間にとつて、自分以外の動物たちは人間を襲つて傷つけるものである一方、人間も動物を狩猟するという互いに競合し、しのぎを削る関係ということ。
- ③人間も人間以外の動物たちも、地球上で生命をつないできたという意味で、ともに生きていく仲間であり、親しみをもつて接してきた関係ということ。
- ④人間は人間以外の動物たちを擬人化して古今東西の民話や説話で描いてきたのであり、あたかも人間であるかのように付き合ってきた関係ということ。
- ⑤人間は、人間以外の動物たちを徐々に人間の生活の内部に組み入れてきて、人間と手を携えて生きてゆく存在として位置づけてきた関係ということ。

【18】

波線部D「ヒトはなぜ他の動物との異質性をかくも強く意識せずにいられなかつたのだろう。」とあります、が、筆者はこの問題にどのように答えていましたか。その説明として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問18】

- ①人間以外の動物たちが人間に比べてどれほど知性や能力が欠如しているかを暴くことによって、人間だけが生き延びる世界をより強固に構築していくことができるから。
- ②人間以外の動物たちが人間とはいかに異なるかを明確に認識することによって、人間の優位性や人間らしさということをよりはつきりと確認することができるから。
- ③人間以外の動物たちを対象として観察し、人間との違いを明らかにすることによって、その動物たちと対決する人間も別の能力が欠如していることを自覚できるから。
- ④人間以外の動物たちと人間との差異にこだわりつづけることによって初めて、人間という存在が他の動物たちに超えられてしまうようなことはないのだと安心できるから。
- ⑤人間以外の動物たちがいかに劣った存在であるかをはつきりとさせることによって、人間が他の動物たちを食材とすることに罪の意識を感じないでいることができるから。

【19】

本文で述べている筆者の考え方と合致するものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問19】

- ①牛や馬は人間によつて野生動物から家畜へ、そして農耕や食材のための動物へと人間社会での位置を変えてきたが、犬や猫は常に人間に愛される対象であつたと言えよう。
- ②人間は人間以外の動物を支配／被支配の関係に縛り付けることによつて人間に都合よい動物に改良してきたのであり、それは進化の歴史として必然的なことであつた。
- ③人間と人間以外の動物たちは共にこの地球で限りある生を営んできた生命体であるが、それぞれの能力には厳然たる格差があり、人間が中心となるのはやむをえない。
- ④現代社会では犬や猫などの動物がペット化されているが、そのことによつてヒトとヒト以外の動物との関係はかえつて遠くなつてしまつたといえるのではないか。
- ⑤ハイデッガーが言うように、人間以外の動物たちは皆「世界が乏しい」存在に過ぎないのであり、それゆえに彼らは人間の操作対象となつてしまつたのである。

【19】

二次のI～IVの資料を読み、後の【1】～【12】の問い合わせに答えなさい。

I

大量の雨が降っても、低地の人々の暮らしに水害を被らないようにする事業のことをわたしたちは「治水」と呼んでいます。家屋の土台を高くしたり、その周囲を土手で囲んだりして水の侵入を防ぐことも治水方策です。

河川の構造を変化させる治水では、川の幅を広くし、深さをつけて、流下する水の高さを抑えることで氾濫を抑制します。あるいは、ガニヨウな土手を造って洪水を川の領域（河川区域）に封じ込めたり、河川を直線状に改修したりして流下速度を上げる方法などがあります。ダムをつくり、川の中の洪水を貯留すること、流域の傾斜地にたくさんの池をつくったり、田んぼを利用したりして保水する工夫も治水です。土手を越えて、あるいは、土手の切れ目などからあふれて川の外に流れ出す洪水を、川の脇で一時貯留する遊水空間を設けるという方式もあります。水源地域の森の手入れを進めて、保水力の高い森林を整備することも、もちろん治水の大きな工夫の一つです。

自然排水の難しい低地地域の氾濫水（内水）の処理は、河川ではなく下水道のメカニズムで対応されることが一般的です。氾濫する可能性のある内水は、側溝などを通して集水されて川に排水されたり、ポンプ場経由で川に排水されたり、あるいは地下の貯留槽に溜められ、洪水が去った後、川や海へと排水されてゆきます。

下流の大氾濫を防ぐ、あるいは緩和するための工夫は、標高の高い流域上流部、中流部、下流の低地地域それぞれに存在するということです。これらを総合的に活用する治水方式を「流域治水」と呼ぶのであれば、そもそも治水は「流域治水」以外にあり得ません。当然のことなのです。

それでは、なぜ二〇二〇年七月に日本は流域治水への転換を表明したのでしょうか。明治以降の治水政策の大転換と評価される理由は何なのでしょうか。

近代・現代の治水は、雨の水の集まる河川、下水道という構造を効率的、合理的に改造、管理し、低地での氾濫を抑えてゆくという道を追求してきました。この考えに沿って大水害を抑えるための法律は基本が二つ。一つは、河川法です。自然公物である河川を利水、治水、環境保全を目標として計画的に整備し、管理することを行政に義務付ける法律です。

もう一つは下水道法です。都市に張り巡らされている下水管を利用して、生活雑排水やトイレの排水を集め、下水処理場で処理を進める法律です。

二つの法律に基づく行政事業が順調に進めば、流域生態系の集水する雨の水が、大規模な水害をもたらす危険性は、流域各地における複雑で小規模な工夫に頼らずとも、次第に緩和してゆくことができると期待されてきました。

〔1〕、今になってその期待を果たすことに困難が見えてきたのです。河川事業も下水道事業も奮闘しているものの、都市開発の速度や規模が大きくなり、また、雨の降り方などが変わって、豪雨が頻発するようになりました。河川法、下水道法による整備・管理がどれだけ力を入れても、限界が見えてきたということがあります。

そこで流域治水です。流域生態系が提供できるさまざまな治水効果、河川整備や下水道整備とは別の工夫で進めることができるもの、多様多彩な治水の工夫を、現代の視点からあらためて総合的に活用する。河川、下水道の努力を応援し、流域生態系のあらゆる機能をあらためて利用、応用して流域全体の工夫で豪雨時代の治水を進めてゆく。それが二〇二〇年七月にスタートした流域治水です。

一九八〇年にスタートした、鶴見川流域総合治水対策を推進する行政組織は、「鶴見川総合治水対策協議会」と呼ばれました。

計画の基礎となつたのは、流域の土地利用についての方針です。都市計画の領域では、すでに市街化区域、市街化調整区域などの土地利用の指定が流域関連自治体すべてに示されていたのですが、それとはまったく別に、水循環に関する特性に基づき、流域全体が①保水地域、②遊水地域、③低地地域の三つに大別され、それぞれの地域でどのような治水対策を重視するのかという指針が示されました。

①保水地域

流域の七割を占める丘陵・台地地域は、緑の保全や市街化に伴う雨水調整池の設置など、保水力に注目した「保水地域」とされました。

②遊水地域

本流と大きな支流の氾濫原地形には、広大な水田が広がっていましたので、この領域は水田の田畠などへの転用を抑制し、氾濫水を一時的に滞留させる機能を重視した「遊水地域」とされました。

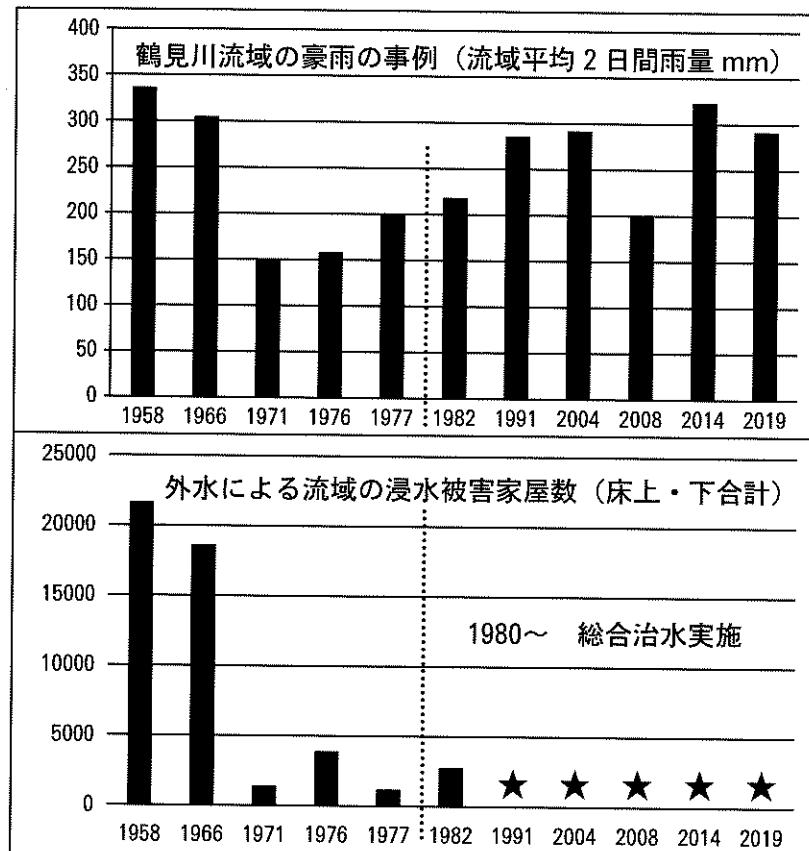
③低地地域

町に降った雨が自然の力で川に排水できない下流の沖積地帯には、下水管、ポンプ場などを整備します。そして、減災についての建設方式などを含むさまざまな工夫を進める「低地地域」とされました。

※なお、横浜市、川崎市の低地地域では、一九八〇年以前から大型の下水管の設置、ポンプ場の整備などを長期にわたって進めてきましたが、近年でもさらに地下に大規模な雨水貯留施設の設置などの対策を進めています。(作問者注)

通常の都市計画の枠組みと整合性をとることがきわめて難しかった地域指定ではありましたが、緊急対応としての機能はしっかりと果たすことができました。

III



上図：横軸は豪雨のあった年（1980年までは150mm以上、以後は200mm以上）

下図：上図豪雨時の外水氾濫による浸水家屋数。

〈グラフの説明〉

○上段のグラフは、流域平均二日間の雨量（降りはじめてから降り終わりまでを二日間で区切り、流域各地に降った雨の総量を基礎にして流域全体で平均したもの）。一五〇ミリメートルを超える規模の雨について、記録された年ごとに縦軸に雨量を示しています。

○下段のグラフは、それぞれの雨で流域にどのような規模の水害が起きたのか、床下浸水・床上浸水として記録された被災家屋の合計数が示されています。★印は被害がないことを示しています。

総合治水の流域連携プレーの成果を確認する上で、象徴的な出来事は、二〇一九年の台風十九号襲来時における、鶴見川多目的遊水地の活躍です。

一〇月一二日、台風十九号襲来の夜、増水する鶴見川本流の洪水は多目的遊水地の越流堤を越え、遊水地に流入しました。多目的遊水地は河川区域であり、豪雨時に水を溜めることができますが目的の河川施設です。そのかなりの部分は運動広場や施設として横浜市が利用し、福祉施設の建屋や自然保護のための緑地・池などが配置されています。その運動施設の中心が、かつてサッカーの世界戦が開催された横浜国際総合競技場でした。

競技場では、台風襲来翌日の一二日、日本とスコットランドのラグビー戦が予定されていました。豪雨の襲つた一二日の夕方には本川から洪水（大雨の水）が越流して、競技場下の投擲場まで水没しはじめたのです。この段階で、「明日の競技は大丈夫か？」との全国報道もあったのですが、洪水の湛水は九四万^bm³にとどまり、翌日にはラグビーの世界戦も無事実施され、日本が快勝したことは（2）の通りです。

実はこの時、英國の報道が「日英のラグビー戦の行われている総合競技場は、下流の町を水害から守るために巨大な遊水地の中に、一〇〇〇本を超す柱で支えられている」と、遊水地を絶賛したのでした。この報道もあって、多目的遊水地は（3）全国・世界にまで知られるようになりました。

（1）、同時にこの評判が大きな困惑、誤解も生みました。「鶴見川下流の低地帯を水害から守っているのは、最大三九〇万^bm³の貯水量を誇る多目的遊水地である。多目的遊水地があれば下流は安心だ」という評判となつて広まってしまったのです。決して誤りではないのですが、流域治水、総合治水を推進する鶴見川流域の防災事情からいえば、大きな誤解にもつながるのです。すこし複雑ですが、ぜひ、事情を理解していただきたいと思います。

多目的遊水地の北側を流下する鶴見川本流には、その上手の流域（集水範囲）から膨大な量の洪水が流下します。多目的遊水地がそのピークの流れを安全に貯留したことはマギれもない事実なのですが、そもそも多目的遊水地の越流堤に到達する洪水量そのものが、総合治水の流域連携努力によって、大幅に削減されていたことがあります。多目的遊水地のこの度のカイキヨ^cは、中上流で保全されている広大な森や、数千ヶ所を超える雨水調整池の大きな保水力の（4）であることを見逃してはいけないのです。

正確に見積もることは難しいのですが、中上流域で保全されている雑木林の大きな保水力や、中上流部の流域に設置されている数千の雨水調整池の保水量は、合計すればおそらく三〇〇万^bm³をユウに超すはずなのです。もし、ここで保水されずに流下していたとすれば、最大貯水量三九〇万^bm³の多目的遊水地も満水となり、下流の本川で越流氾濫を起こしていただかもしれないのです。

二〇一九年、台風十九号の豪雨から、鶴見川流域下流の低地帯を守ったのは新横浜多目的遊水地そのものではなく、町田市、川崎市、横浜市西部の丘陵地帯の諸都市が総合治水連携の努力によって確保してきた緑・田畠、そして多数の雨水調整池が、河川法、下水道法の法廷義務の外で大規模な保水を実現し、河川法対策である多目的遊水地を見事に補佐したというのが、正しい理解ということなのです。

流域治水を進めたさまざまな施設や緑の流域連携のチームプレーの成果。それこそが総合治水対策、流域治水の真髄です。

（資料は全て、岸由一『生きのびるための流域思考』・筑摩書房 より抜粋）

【1】二重傍線部 a) d のカタカナと同じ漢字を書くものを、次のそれぞれの選択肢①～⑤の傍線部から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 20 ～ 23】

① ガンチクのある言葉だ。

② この作品のガンモクを説明する。

③ 秋のヒガンに墓参りする。

20 a ガンキョウ

④ 学生は文化祭を開催するよう大学にコンガンした。

⑤ 私の父親はガンメイな性格で考えを曲げなかつた。

21 b マギれ

- ① 日本のコフン時代に大陸から渡来したそだ。
② 日ごろのウッパンを晴らす。
③ 彼が優秀な作家だという噂があるなんて、フンパンものだ。

④ A社の株主総会はフンキュウして長時間に及んだ。

⑤ 木の実をフンマツにして水に溶かす。

22 c カイキョ

- ① 彼は本心を隠してキヨセイをはつてゐる。
② わかった人はキヨシユしてください。
③ 今大会には一兆円を超すキヨヒが投じられた。
④ 私の意見はこの作品の解釈としてキヨヨウされる範囲だ。
⑤ あなたの主張のコンキョを示してください。

23 d ユウに

- ① ジユウのいかんに関わらず君の行為は許されない。
② 彼女は期末試験で満点だったので、ユウエツカンにひたつていた。
③ 太古から続くユウキュウの自然の景色だ。
④ 子どもを助けた彼女のユウカンな行為は賞賛に値する。
⑤ 母親の心配はキユウに終わつた。

【2】本文中に二ヶ所ある空欄(1)に入る語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 24】

24 ①なぜなら ②しかし ③さらに ④したがつて ⑤たとえば

【3】空欄(2)を含む傍線部分が、「広く知れ渡つてゐる通りです。」の意味となるよう、最も適切な語を、次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 25】

25 ①評判 ②想定 ③普及 ④熟知 ⑤周知

【4】空欄(3)には「いっきょ」の意味の語が入ります。最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 26】

26 ①一斉 ②一切 ③一際 ④一躍 ⑤一層

【5】空欄(4)には「恩恵」の意味の語が入ります。最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。なお、漢字ではなく、ひらがなで読みを示しています。【解答欄は問 27】

27 ①しろもの ②おとのもの ③つきもの ④えんきもの ⑤たまもの

【6】

波線部A 「なぜ二〇二〇年七月に日本は流域治水への転換を表明したのでしょうか。」とあります。日本が流域治水に転換した理由を、筆者はどのように説明していますか。最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問28】

- ① 地球規模の大きな気候変動によって豪雨が繰り返されるようになり、バブル経済崩壊後に経済状況も悪化し、大規模な河川工事や下水道整備工事などは財政的に破綻寸前の状況に追い込まれてしまったから。
- ② 従来の大規模な河川整備工事では、特に上流・中流域の自然環境が破壊され、森林がなくなることによってかえって流域全体の保水力が失われていることが専門家の指摘によって明らかになつたから。
- ③ 流域の都市開発が急速に進み、また気象状況が大きく変化して豪雨が度々降るようになり、従来のような河川整備や下水道の整備だけでは水害を防ぐことが困難であると考えられるようになつたから。
- ④ 下流域の人口密集が想定していた以上に急激に進んだため、下水道整備工事が追いつかなくなり、また、下水処理場を設置することも困難となつて、内水氾濫の危険性がよりいっそう増してしまつたから。
- ⑤ 河川法、下水道法という二つの法律に基づく従来型の治水事業は、インフラ整備が中心であったが、計画から建設までに時間がかかり、住民の意識の変化に対する柔軟性に欠けるなどの短所が明らかになつたから。

【7】

波線部B 「鶴見川流域総合治水対策」で策定された対策の説明として不適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問29】

- ① 治水対策の方針では水循環の特性に基づいて、流域ごとに自然環境や住環境なども考慮して治水対策が策定された。
- ② 上流、中流域の多くは丘陵・台地地域であつたため、雑木林や緑地を整備し、保水力を確保する施策がとられた。
- ③ 数多くの支流と合流する所は、広大な農地が広がつており、もともと有していた遊水地の機能を拡充させる施策がとられた。
- ④ 下流域の人口密集地域では、既に策定されていた都市計画と矛盾する方針であつたため、下水道整備が遅れた。
- ⑤ 下流域では大量の雨水を貯留する施設を建物の地下に設けたり、下水処理場の整備など内水氾濫を防ぐ施策がとられた。

【8】

資料Ⅲのグラフから読み取ることとして、誤っているものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問30】

- ① 一九七六年は、流域平均一日間雨量はグラフ中十番目であるのに、浸水被害家屋数はグラフの中で一番目に多い。
- ② 一九八〇年以降は、総合治水対策を実施したことにより、浸水被害家屋は皆無となつた。
- ③ 二〇一四年の流域平均一日間雨量は、グラフ中二番目に多いのに、浸水被害家屋数はゼロである。
- ④ グラフ中最も甚大な被害であったのは、一九五八年であり、この時の浸水被害家屋数は二万件を超えている。
- ⑤ 流域平均一日間雨量が三百mmを超えたのは、グラフ中では三回あるが、一九七〇年以前には大きな浸水被害をもたらした。

30

29

28

資料Ⅲのグラフから読み取ることを踏まえて、「鶴見川流域総合治水対策」の客観的な評価として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問31】

- ①浸水被害家屋数が減少したのは一九八〇年代からであり、総合治水対策の成果ではない。
- ②一九七〇年代から浸水被害家屋数が減少し始めており、総合治水対策がその頃から一定の成果をあげてきたといえる。
- ③たしかに浸水被害家屋数は減っているが、総合治水対策実施時期とずれており、成果とは言えない。
- ④豪雨そのものの質が変ってきていていることから、はつきりと成果をあげているとは言いがたい。
- ⑤総合治水対策実施十年後以降には浸水被害家屋が無く、目に見える成果を確実にあげている。

31

波線部C「大きな誤解」とはどのようなことですか。筆者が述べていることとの説明として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問32】

- ①鶴見川下流の低地帯を水害から守っているのは、新横浜多目的遊水地であるかのように理解するのは、横浜国際総合競技場を含む運動施設は、そもそも遊水地とは無関係の施設であるという点で誤解だとううこと。
- ②鶴見川下流の低地帯を水害から守っているのは、流域全体による総合的な治水であるということを誤解だとうこと。
- ③鶴見川下流の低地帯を水害から守っているのは、新横浜多目的遊水地であると理解するのは、遊水地が三九〇万m³しか貯留できず、台風19号の時には雨量が少なかつたということを忘れているという点で誤解だとうこと。
- ④鶴見川下流の低地帯を水害から守っているのは、新横浜多目的遊水地であるかのように理解するのは、上・中流域の緑地や雨水調整池の大きな保水力を考慮していないという点で誤解だとうこと。
- ⑤鶴見川下流の低地帯を水害から守っているのは、上流地域の緑地の保水力であるという理解は、低地帯にはりめぐらされた下水管整備の役割を評価していないという点で誤解だとうこと。

波線部D「流域治水の真髄」とはどのようなことですか。筆者が述べていることとの説明として最も適切なものを次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問33】

- ①流域治水というのは、特定の施設だけで実現できることではなく、流域各地で行う一つ一つの対策が全て機能することによって実現できるということ。
- ②流域治水というのは、特定の自治体が実施する施策ではなく、国が主導して複数の自治体をまとめて計画を立案し、実施する広域的な施策であるということ。
- ③流域治水というのは、河川の流れや、流域の雑木林の保水力、さらには河口付近の潮力など、自然の資産を有效地に活用してはじめて実現できる施策であるということ。
- ④流域治水というのは、下流域に到達するまでにどれだけ流量が制御されているかということが最も重要な点であり、下流域の施設整備は無関係であるということ。
- ⑤流域治水というのは、台風や豪雨などの災害時だけの問題ではなく、日常的にどれだけ河川や下水道を適切に管理し、維持しているかということが最も重要であるということ。

IからNの資料を読んで、高校生が話しています。その中で、資料の内容に照らして誤っていることを述べている意見を、次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問34】

- ①資料を読んで、私はさっそく自分が住む自治体が公表している「洪水ハザードマップ」を確認したのだけれど、改めて地形に目を向けなくてはいけないことがわかったわ。自分の住んでいる場所ではどのような治水対策が行われているか調べてみようと思う。
- ②私はどちらかというと中流域に住んでいるのだけれど、自宅の近くにある「市民の森」が、下流域の水害を防ぐ保水の役割を果たしていることがわかつて、驚いたのよ。
- ③私の母親が勤めている会社は、川の近くに新しく高層ビルを建てたときに、地下に広い雨水貯留施設を造つたと、母が言っていたんだ。そのときは聞き流していたんだけど、この資料を読んで、改めてそういう施設の大切な役割を知ることができた。
- ④私は二〇一九年のラグビーワールドカップのとき、新横浜の国際競技場が水の中に浮かんでいるような写真を見たけれど、こういう水害の時の避難所としてこの競技場を建設したのかとわかつたんだ。
- ⑤私は、家の近くに鶴見川の支流の小さな川が流れているのだけれど、この資料を読んで、支流であっても流域全体の中で果たす役割があるのだなと、初めて知ることができたわ。実際に雨が降つたらどうすればよいのか、日ごろから考えておこうと思うわ。